



特集 東日本大震災から10年

あの日を忘れない——

犠牲になられたすべての方に対して哀悼の意を表するため、震災発生時刻の3月11日(木)午後2時46分にそれぞれの場所で、黙とうを捧げていただきますようお願いします。

問合せ／防災・危機管理課(☎232-9152)

東日本大震災では、多くの建物が損壊し、ブロック塀の倒壊や家具の転倒などによる被害が発生しました。地震発生時には、建物に大きな被害がなくても、家具などの転倒・散乱等によりケガをする危険があります。また、逃げ遅れにもつながりますので、屋内・外でできる安全対策を確認し、災害に備えましょう。

屋内・外の安全を確認しましょう

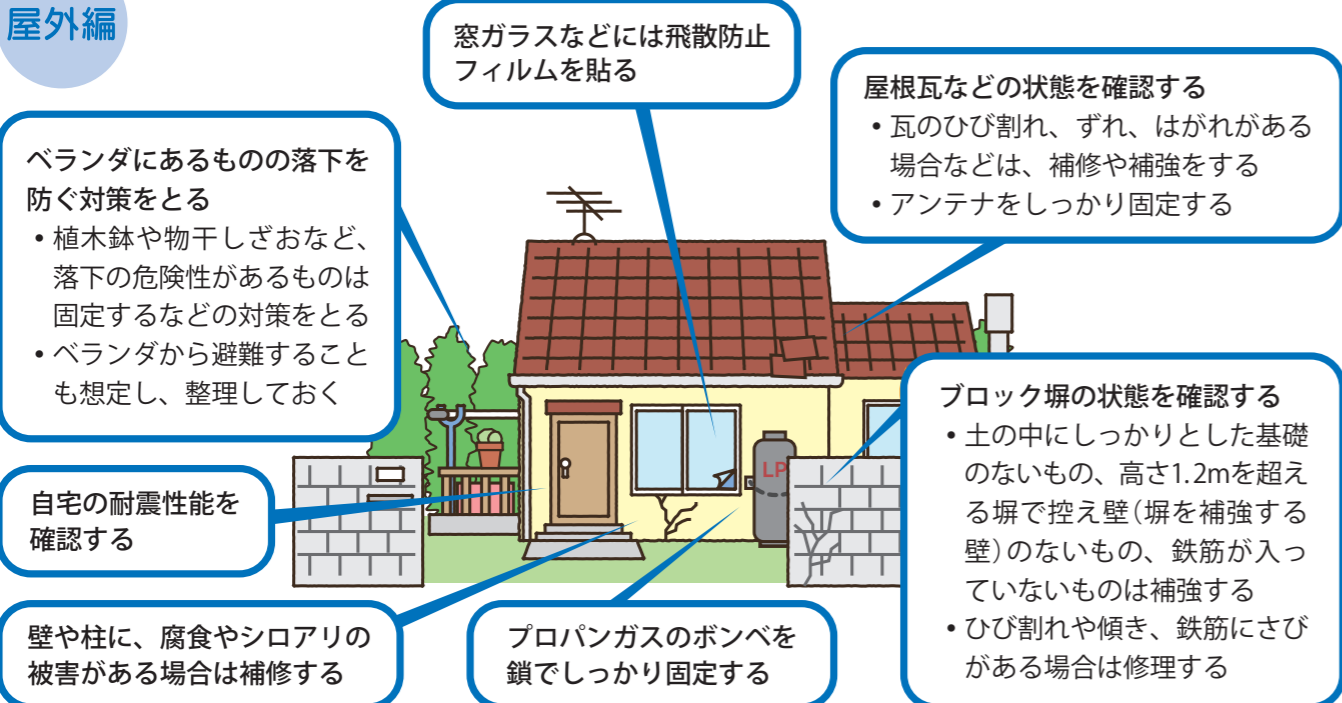
水戸市では、東日本大震災の教訓をもとに、新たな知見や技術を導入し、情報伝達・備蓄・避難所対策などの体制を強化しています。災害時には、自分自身で身を守り、隣近所・地域と連携して助け合うことが被害の軽減につながります。そのためには、日ごろから市民の皆さんと共に備え、助け合える地域づくりを進めることが大切です。今回の特集では、震災を振り返ったうえで、皆さんに取組んでいただきたい日ごろの備えを紹介しています。

水戸市が「一丸」となって、災害に強いまちをつくりましょう！

屋内編



屋外編



平成23年3月11日午後2時46分—
三陸沖を震源に国内観測史上最大のマグニチュード9.0の地震が発生。宮城県北部で震度7を記録し、水戸市も震度6弱の揺れを観測。建物は損壊し、道路も陥没するなど、甚大な被害をもたらしました。



地震発生直後の状況

建物の被害

全壊	590棟
大規模半壊	470棟
半壊	2,497棟
一部損壊	27,758棟

道路(市道)の被害

陥没など	1,861か所
------	---------

津波の状況

津波の被害(水戸市付近)

津波高(那珂川河口付近)	4.5m程度
浸水面積	0.6km ²
到達時間	45分

多くの方が避難を余儀なくされ、不安を抱える日々。そのような中、助けあって地域を立て直そうと、大きな支援の輪が広がりました。



避難所の状況

開設か所	117か所
開設期間	3月11日～4月27日(48日間)
最大避難者数	12,509名(3月12日)
延べ避難者数	42,559名

助け合いの状況

支援物資

非常食	約120,000食
毛布	約10,000枚

このほかにも多くの支援がありました

ボランティアの活動状況

受入れ人数	666名
活動件数	125件

震災当時の市内(④を除く)の様子
①被災した住宅 ②物が散乱する事務室 ③陥没した道路 ④大洗フェリーターミナル付近の渦潮 ⑤がけ崩れによる道路の崩落 ⑥避難所での生活 ⑦炊き出しの準備 ⑧・⑨市役所に届けられた支援物資 ⑩ボランティアによるがれきの撤去作業

**非常持出品・備蓄品を
確認しましょう**

避難に備え、非常持出品をそろえるとともに、家族構成を考えた非常食などを備蓄しましょう。また、非常食は、消費期限を定期的に確認しましょう。

**避難所や避難経路を
確認しましょう**

市内には、82か所の避難所があります。ハザードマップや防災パ

**非常持出品
(リュックサックなどに入れてすぐ持ち出せるもの)**

- 懐中電灯
- 懐中電灯
- ラジオ
- 貴重品(現金、通帳、保険証のコピーなど)
- ヘルメット、防災ずきん
- 衣類
- 筆記用具
- 救急薬品(消毒、マスクなど) など
- 普段から飲んでいる薬
- 呼び笛
- カップ
- 洗面用具
- 保温シート

普段から備蓄しておくもの

- 飲料水(1人1日3ℓを目安に)
- 非常食(3食3日分を目安に)
- ブルーシート、ガムテープ、ロープ
- 簡易トイレ、トイレトペーパー
- ローソク、ライター
- ポリ袋
- 携帯コンロ
- ウエットティッシュ
- マスク など
- 軍手
- ラップ
- 缶切り
- カイロ



ハザードマップ



防災パンフレット

ンフレットなどを活用して避難所を確認し、自分や家族がどのような行動をとるべきか時系列でまとめておきましょう。また、避難所までの経路を2つ以上想定するとともに、経路上の危険箇所を確認しておきましょう。

ハザードマップ、防災パンフレットは、防災・危機管理課、各市民センター、市ホームページで入手できます。また、左の二次元コードからも確認できます。

**地震発生時の安全行動
(自分の身を守る行動)を
意識しましょう**

緊急地震速報を確認したり、小さな揺れを感じたりした段階から家具や、上空からの落下物に注意するなど、自分の身を守る行動を意識しましょう。



することで、市からの情報を入手できます。詳細は、市ホームページをご覧ください。防災・危機管理課へお問合せください。

**災害時には、
みんなで協力しましょう**

自分の安全を確保した後は、隣近所やまわりの方と声をかけ合い、助け合いましょう。

声をかけ合うことで、不安が軽減されるとともに、閉じ込められた方などがいた場合は、早期発見につながります。

また、正確な災害情報入手したときも、隣近所やまわりの方に声をかけるなど、少しでも多くの方に情報が伝わるように、ご協力をお願いします。

**災害時避難行動要支援者名簿への
登録を受付けています**

自力での避難が困難な方や避難に不安を感じている方は、避難行動要支援者名簿に登録することで、災害時に優先して安否確認や避難誘導を行います。

詳細は、市ホームページをご覧ください。なるか福祉総務課(☎232-9169)へお問合せください。



共に備え、助け合える地域づくりを推進しています

○市民の皆さんとの協力体制

・いっせい防災訓練の実施
東日本大震災以降、毎年実施しています。安全行動、災害情報の入手方法などの確認等を啓発しています。

○企業・団体との協力体制

・避難所の拡充・運営体制の強化
82か所の指定避難所(全ての市民センター、市立小・中学校)に加え、事業者の皆さんのご協力により、高齢者や障害者など、特別な配慮が必要な方に専門的な支援を行う福祉避難所(44か所)、浸水対策を踏まえた高台の緊急避難所(14か所)を指定しています。また、ホテル・旅館を活用します。

※避難所の協力体制をはじめ、多くの企業や団体の皆さんと災害協定を結んでいます。
災害協定数…110(企業90、団体57)
(令和3年2月10日時点)

○地域との協力体制

・地域の防災訓練の実施
防災意識の向上や災害対応力の強化に向け、地域の実情に応じた訓練を行っています。

・地域間の相互連携体制づくり

浸水被害が発生した地域に対して、被害の無かった地区会が避難所運営の応援を行います。

・災害時生活用水協力井戸の登録(372か所)

断水したときなどに生活用水として、地域の皆さんに井戸水を無償で提供していただく制度です。登録された井戸は、市ホームページなどに掲載しています。また、井戸所有者の敷地入口付近に看板を設置しています。



▼避難するときは
・電気のブレーカーを落とし、ガスの元栓を閉める
・ブロック塀や切れた電線、がけ崩れ、火災などに注意する

▼コロナ禍における避難について
感染リスクの低減を図るため、できる限り多くの避難所を開設します。また、避難者の体調などに応じて避難する施設を次の表のとおり振分けします。避難者が多い場合は、状況に応じてホテルや旅館なども活用します。

対象	避難所
一般の避難者	小学校
避難行動要支援者など	市民センター
保健所などからの指示で、健康観察期間中の方	中学校(体育館)
体調不良の方	中学校(特別教室など)
感染が確認されている方	個別対応(病院など)

※小・中学校の状況により、一部の地区で対応が変わる場合があります。詳細は、防災・危機管理課(☎232-9152)へお問合せください。

**災害情報の入手方法を
確認しましょう**

災害時には正確な情報入手し、冷静に行動することが被害の軽減につながります。

市からの情報は、ラジオ、緊急速報メール、防災行政無線、市ホームページ、LINE、市メールマガジン、Twitter、Facebook、Yahoo!防災速報アプリなどで発信します。事前の登録や申請が必要なものもありますので、あらかじめ確認しておきましょう。



市メールマガジン(防災メール)



Yahoo!防災速報アプリ

▼防災ラジオ

市では、確実に避難情報を伝達するため、緊急時に自動で電源が入り屋内でも情報を入手できる防災ラジオの貸与を行っています。

避難情報などは、FMはるるん(76.2MHz)で放送します。市販のラジオでもFMはるるんを選局

